マラウイ案内

ー情報あれこれー

平成9年10月

JICA LIBRARY
J 1138497 [1]

JICAマラウイ事務所

目　　次

1．出入国 …… 1
2．ホテル …… 2
3．外貨の両替 …… 3
4．チップ …… 3
5．通　信
（1）郵　便 …… 3
（2）電話・電報 …… 3
6．交　通 …… 4
7．レストラン …… 4
8．観　光
（1）概　況 …… 5
（2）マラウイの観光 …… 5
（3）旅行代理店 …… 5
9．余暇の過ごし方 …… 6
10．医　療 …… 7
11．衛　生 …… 8
12．注意事項 …… 8
13．JICA関係者連絡先 …… 8

別　添

マラウイ地図
リロングウェ　市街図
ブランタイヤ　市街図
リンベ　市街図
ゾンバ　市街図
ムズズ　市街図

1138497 (1)

1．出入国

【入　国　時】

（1）空港施設概要

リロングウェ国際空港（ＬＩＡ：Lilongwe　Internatinal　Airport ）は、国際線および国内線の発着に利用されており２階建ての空港ビル（１階が発着ロビーとなっている）があります。
飛行機を降りてから空港ビルまでは、バスで移動するので空構内で迷うなどの心配はありません。

（2）入国手続き書類

パスポートと機内で配られる入国カードが必要です。また、あらかじめ入国ビザを取得しておいた方が良いでしょう。日本では、東京のマラウイ大使館で１週間程度で発行しています。

（3）入国審査

機内で渡される入国カードに必要事項を記入しておいて、到着後パスポートとともに入国審査官に提出して、パスポートに入国スタンプを押してもらいます。入国に際しての費用は不要です。

（4）税関検査

入国審査の後、機内に預けた荷物をベルトコンベアーより取り出し、税関検査をうけます。
税関検査はかなり厳しく、公用旅券保持者でも荷物を開けられることが多い。専門家の場合、携行機材を持ち込む場合は、無税通関のため、事前に Invoice, Packing List, Air Waybillを通報し
て　必要な手続きをしておかないと、空港で機材を引き止められる場合があります。

（5）空港からのトランスポーテーション

ＬＩＡからはバスはほとんど利用不可能なため、タクシーなどを利用することとなります。タクーはメーターがないので、利用する前に値段を交渉する必要があるでしょう。参考までに１９９７年４月現在 MK ２００（約1,400円）です。

（6）空港内での留意点

どこの空港でもいえることですがが、盗難に十分注意して下さい。また、ポーターを利用の場合は、カート１台につき MK ５をチップとして支払うのが相場です。

【出　国　時】

（1）出国時の概要

ＬＩＡ待合ロビーの航空会社カウンターに、パスポート、航空券を提出し、荷物を預けると同時に、出国カードをもらい、必要事項を記入します。パスポート、残りの航空券と搭乗券をもらい、空港利用税支払い窓口へ行き、残りの航空券と税金 US$２０ドル（１９９７年10月現在、現金で支払う必要があります）を提出し、残りの航空券ひ領収シールを貼って返してもらいます。
出国時、現地通貨持ち出し額は ２００MK までです。出国審査官にパスポート、搭乗券、出国カードを提出し、パスポートに出国スタンプを押してもらい、搭乗券とともに返してもらいます。
その後、出国者待合ロビーで待ちます。ここには小規模な免税店があります。

（2）外貨持ち出し規制

現在は、外貨持ち出し規制はありません。

（3）リコンファーム

出国７２時間前までにリコンファームを必ず行って下さい。

2．ホテル

（1）ホテルなど宿泊施設の手配

マラウイには、南アフリカのプロテアホテルズのチェーン・ホテルをはじめとし、各都市やマラウイ湖畔のリゾート地にホテルがあるほか、主要な町には政府直営旅館があります。

これらのホテルや旅館には、電気、水道、浴室（シャワーのみの場合あり）の設備があり快適な宿泊が望め、料金はホテルで朝食付きシングル　US＄１００（約10,000円）程度で政府直営旅館でUS＄５０（5,000円）くらいです。

宿泊の予約は、直接ホテル及び政府直営旅館に電話して予約します。また、旅行代理店でもできますが、自分で行う方が手数料もかからず無難でしょう。

（2）主要ホテル一覧表（プロテアホテルズ・メンバーの割引レートあり。JICAが予約した場合そのレートで宿泊できることになっているます。）

ホテル名	住　所	電話	FAX	料　金
ﾘﾛﾝｸﾞｳｪ地区				
*Capital Hotel	P.O.Box 30018, Lilongwe 3	783388	781273	US$
*Lilongwe Hotel	P.O.Box 44, Lilongwe	740488	740505	US$
Lingadzi Inn	P.O.Box 30367, Lilongwe 3	720644	……	US$
ﾌﾞﾗﾝﾀｲﾔ地区				
*Mount Soche Hotel	P.O.Box 284, Blantyre	620588	620154	US$
Ryall' s Hotel	P.O.Box 21, Blantyre	620966	620201	US$
ｿﾞﾝﾊﾞ地区				
*Ku Chawe Inn	P.O.Box 71, Zomba	522566	……	US$
Government Hostel	P.O.Box 98, Zomba	522688	……	US$
ﾏﾝｺﾞﾁ地区				
*Nkopola Lodge	P.O.Box 14, Mangochi	584444	584694	US$
Club Makokola	P.O.Box 59, Mangochi	584244	584417	US$

※サービス料、税金20%が料金加算されます

＊印はプロテアホテルズ加盟ホテルです

（3）ホテルの支払い方法

ホテル料金（宿泊料・レストラン料金等）は原則的にはマラウイクワチャで支払います。米ドル、ポンドで支払う場合は、ホテルの両替所で一度マラウイクワチャに交換してから支払うこととなります。なお、クレジットカードによる支払いもホテルでは可能です。

3．外貨の両替

到着時の外貨交換は空港ビル内（待合ロビー）の銀行で可能です。また、リロングウェ市内には、銀行の他に外貨交換所があり、銀行レートより率が良い。また、ホテル内でも交換可能です。

交換レートの変動があるので、一度にあまり多額の両替をすると損をすることがあります。

参考までに平成9年10月のレートは、約１US＄=MK17，　１MK=約７円です。

4．チップ

ホテル、レストランとも１０％のサービス料が加算されるので必要ありませんが、ホテルのポーターには荷物１個につき１～２クワチャ程度を、レストランでは小銭のおつりを渡す人が多いようです。

5．通　信

（１）郵便

日本～マラウイ間の航空郵便の所要日数は、手紙などの場合は、通常１～２週間、小包は２～４週間程度です。急を要するものは、DHL（リロングウェ市とブランタイヤ市にある）を利用するのが一番早く、通常、日本まで１週間以内で届きます。

日本からの船便による手紙や郵便小包は通常１年前後の月日を要し、内容物の破損なども多いため、利用には適しません。現在の料金（日本まで）はハガキ MK１．８、手紙１０ｇごとに MK２です。

（２）電話、電報

リロングウェ、ブランタイアの大きなホテルには「ビジネスビューロー」があり、国際電話, FAX およびコピーサービスが使用できます。

国際電話は、主要都市に対してはダイヤル直通で、一部の地域への通話は、交換手扱いの予約制です。

料金は、１９９５年２月現在、市内３分間MK８（56円）となっています。国際電話は、昼夜を問わず、ほとんどの国へのダイヤル通話が可能である。

ダイヤル直通の場合、１０１－８１－の後に市内局番から０を取ってダイヤルします。（例０３－３７４６－５０３３の場合１０１－８１－３－３３４６－５０３３）オペレーター通話「１０２」を利用することもでき、料金はダイヤル通話と同じである。

日本への通話料金は、１分間、平日約US＄３（300円）、平日深夜、土曜日、日曜日は１割引となります。（ホテルでは倍の料金をとられることが多い）日本との時差は７時間で日本の夕方から夜間がマラウイの昼間にあたり、この時間帯などが日本との通話に適した時間です。

電報は、マラウイ各地の郵便局より、国内および国際電報が打電できるが、アルファベットしか使用できません。

6．交　通

公共交通手段は比較的によい。市内はバス（日本の乗合バス）やミニバス（１５人乗り程度）が、早朝から夕方まで運行しており、仕事の始まる時間帯には、バスの本数が増ます。

料金は市内では１０Kmまで　4　MK（約30円）です。市内バスはバス停に止まりますが、ミニバスは、どこからでも乗り降りができます。行き先も前の表示をみれば簡単にわかります。

しかしながら、バス、ミニバスともに常に混雑しており車内でのスリの被害もあるため、利用には注意して下さい。